

『新編・ロスト・タブレット 2019』

1 コロンビア・ベネズエラ国境の今

2019年2月6日

『私は人民に選ばれた指導者よりも、指導者を選んだ人民の方に千倍もの信頼を置いている。』 『一体どうやったらこの迷宮から抜け出せるんだ!』

シモン・ボリーバル(1783~1830)南アメリカ「解放者」

2月6日のことだった。AFP通信やロイター発のニュースが世界を駆け巡った。ベネズエラ軍がコロンビアとの国境をまたぐ Tienditas 橋を封鎖し、米国やコロンビアからの人道支援物資の受け入れ阻止の挙に出たのだ。

勝呂にはコロンビアのマリア・ドゥルセからいち早くこの知らせが入っていた。例のバラ窓のスカイプ通信は健在だ。もともとこの橋は2016年に完成したのだが、両国の関係悪化が響いて一度も開かれたことがないのだ。マリアの解説を聴こう。

「両国を遮る国境は北からアンデス支脈最北端の山あいから始まってオロ川やスリア川、ラ・ソングダ溪谷を下ってパンプロニタ川から今問題の Tienditas 橋が架かるタチラ川、さらに南下してアグア・ブランカ溪谷、ラ・グリトナ溪谷を経て東に流れるアラウカ川へという具合に、ほとんどが溪谷や川が境目になっていて、地図上を強引に線引きした直線部分はあまりないのよ」

マリアが空からたった今し方見てきたように言うのはいつものことだ。

「最北のマイカオの町からマラカイボに通ずるのがグアヒラ国境道路で、それ以外の5つの国境はみんな川で遮られているので検問のある橋を渡ることになるのよ。もっとも、タチラ川のように平地を流れる川では浅瀬で川幅も狭く、容易に越境が可能なのよ。写真を見てね。橋の場所も図面に入れといたわ」



川を渡って越境するベネズエラからの避難民 Revista Semana Col.

食器の音がしている。お茶しているのか？

「さて問題の Tienditas 国際橋よ、シオ（勝呂のこと）。今年の 2 月 6 日に撮られた写真の 2 基のコンテナと真ん中のタンクはおそらく前日の 5 日にベネズエラ軍が急遽設置したものなのよ、よく見てね。その直ぐ手前に向かい合ってスチール・ワイヤーのフェンスと 4 個のコンクリート・ブロックが置かれているわね。こちらは 2017 年 6 月ころにコロンビア側が治安確保のために設置したものなのよ。その前年あたりからそれはもう両国の関係は険悪となり、せつかく完成した Tienditas 橋は開通式も挙げられず、今まで閉鎖されたままだったという訳なの。並んで走っている三本の橋の真ん中をよく見て頂戴、シオ。スチール・フェンスは観音開きになっていて大きなカンダード（錠前）で施錠されおり、コンクリート・ブロックも容易に退かせるようにしているのがわかるはね。ベネズエラ側だって真ん中のタンクローリーには直ぐに撤去できるように車が付いているでしょ。どちらも一応封鎖解除には備えているのよね。サベ・ケ（知っている？）、シオ。グアイドー暫定大統領は 2 月 23 日に人道支援デモを呼びかけており、SNS ではもうすでに 70 万人が呼応しており、これに対するマドゥーロ大統領の出方次第では、支援物資の運び込みが人海作戦で行われるかもしれないわね。国境での騒乱は避けられない雲行きよ」

「そうかマリア、コロンビアのククタやブラジルのロライマには支援物資がどんどん集まっているそうだね。それにしても、もらった資料の「2015 年の危機」から今日までに、ベネズエラの人たちの難民の数の増え方は尋常ではないね！コロンビアにはもう百万人ちかくが入っているんだって？」

かつてサントス前大統領の政権下この事態を重く見たコロンビア政府は、ベネズエラ人を対象に特別滞在許可証を発行しているという。この滞在許可証で就労や勉学を認めている。

「そうなのよ、とうとう私たちピンソン家の知り合い達も避難して来たのよ。ベネズエラの経済危機は、それはもうひどいものよ」「それってチャベス-マドゥーロ歴代政権の失政なの？」「う〜ん、それも大いにあるけど、米国の度重なる経済制裁のせいでもあるわ、きっと両方だわ」

「シナジー相乗効果ならぬ相乗害毒？というわけか」「そう、医学用語でいう Anergia（免疫・エネルギー欠乏症）よ」医者でもないマリアお得意の医療用語が出てきた。昔から中南米を「裏庭」扱いしてきた米国のやり方は今またここでも生きているのか。

◎ B-wink ロスト・タブレット本編 333 ページ「バナナ戦争」参照

国境の町ククタには米国軍用機が、マイアミやプエルト・リコやキュラソー島から支援物資を運び込んでいる。当のマドゥーロ大統領は支援の受け入れは政治ショーであり、米国の軍事介入の端緒になるからと支援を頑なに拒否している。南米の解放者、シモン・ボリーバルは草葉の陰でさぞかし嘆いていることだろう。

*2 月 23 日に起きた出来事とは：経緯は末尾に掲載 [Wink](#)



Mapa de la crisis 2015 entre Colombia y Venezuela (deportados-retornados).svg CC BY-SA 4.0

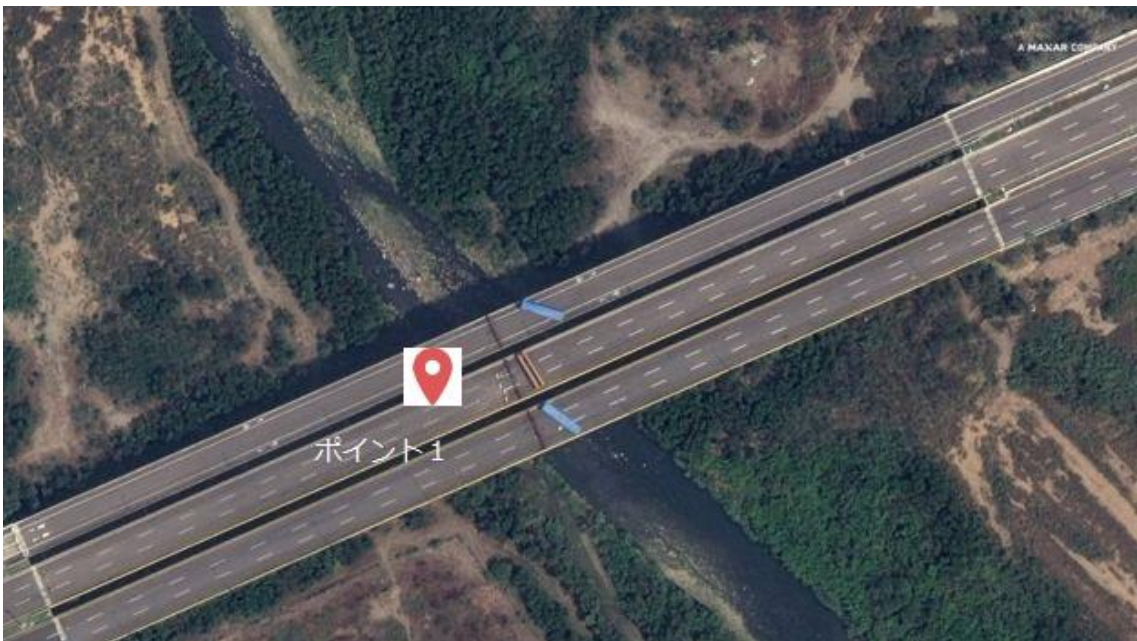
[2015年コロンビア・ベネズエラ危機で移動した数と国境橋の位置]



 ポイント 1 : 2019 年 2 月 撮影 Alejandro Suarez



PBS NEWS HOUR
2019 年 2 月 撮影



Tienditas 国境橋

REUTERS 2019 年 2 月 撮影



Google Map 2017年頃：コロンビア側が敷設したと思われるフェンスと4個のブロックが見える。



2017年5月撮影 David Chan



ポイント2: 2017年6月撮影 Carolina Franco



AFP 通信：現地時間2月21日
23日の人道支援行動に対抗するためにマドゥローロ大統領は国境封鎖をさらに強化した。もはや衝突は避けられない雲行き。

Wink :

2月23日に起きた出来事とは：ベネズエラ国境各地で衝突。マドゥーロ大統領は政府軍や警察を動員し、武力で国境を封鎖し人道支援物資の搬入を阻止した。一部物資に火が付き、死傷者が出た。マドゥーロ大統領はコロンビアがグアイドー野党連合側と共謀し米国の軍事介入を画策しているとして国交断絶に踏み切った。一方グアイドー暫定大統領は米国ペンス副大統領、コロンビアドゥケ大統領と会談してマドゥーロ政権の打倒を国際社会に呼び掛けた。そして米国はベネズエラにさらなる経済制裁を宣告した。あの Tienditas 国際橋は今回も開かずの橋に終わった。



次号予告：2月末連載予定/シモン・ボリーバルの遺産

REUTERFoto

『新編・ロスト・タブレット 2019』

2 ボリーバル革命の今 -ボリーバルの嘆きは尽きない

2019年3月

『革命の結果に奉仕しようとするものは、海を耕しているようなものだ…』

シモン・ボリーバル(1783~1830)南アメリカ「解放者」